

Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO. 180 2022. 2. 14

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室

日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL: 090-1026-1413 FAX:050-3488-5061

E-mail: jsei@m11.osaka-kyoiku.ac.jp <http://jsei.jp/home/>

＝ 日本教育情報学会 第38回年会 ＝

開催日：令和4年8月20日（土）・21日（日）

テーマ：教育情報学の地平を拓く

—教育DXの推進に向けて—

近年、教育DXの推進が加速している。例えば、「令和の日本型学校教育」（『令和の日本型学校教育』の構築を目指して）中央教育審議会答申、2021.1）では、すべての子どもたちの可能性を引き出すための「個別最適化の学び」と「協働的な学び」が教育DXを通して実現されると述べている。また文部科学省やデジタル庁は、教育のデジタル化のミッションとして、「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」を掲げ、教育データの範囲、品質、組み合わせといった3点の軸の拡大・充実によって教育の質を向上させることを目指し、具体的なロードマップ作成に着手している（「教育データ活用ロードマップの検討状況について」2021.10）。人類が経験した未曾有の危機である新型コロナウイルス感染症拡大の経験を背景に、デジタルツール活用の浸透に留まらず、フィジカル空間とサイバー空間とが高度に融合した社会（Society5.0）を見据え、教育や学習のパラダイムシフトが急速に進み、教育情報（学）の使命と重要性も高まっている。

一方、日本教育情報学会は2022年度より林徳治先生から安達一寿先生へ会長のバトンが引き継がれる。「理論と実践との架け橋」を推進した林先生の理念を継承すると同時に、「豊かな教育情報の流通」を目指す日本教育情報学会は、コロナ禍の経験を乗り越えることに留まらず、教育のデジタル化と変革のさらなる加速を射程に入れ、これからの教育情報学の使命と展望を描くことが求められている。

そこで、こうした教育情報学の転換期に2年ぶりに対面（予定）で開催される2022年度の日本教育情報学会第38回年会のテーマを「教育情報学の地平を拓く—教育DXの推進に向けて—」と設定した。コロナ禍を乗り越えた足元の変革を基盤としながらも、近未来の教育像をも見据えつつ、教育DXのさらなる推進に向けて、「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」を実現する、これからの「豊かな教育情報」を考えていく。

第38回年会実行委員長 石川敬史（十文字学園女子大学）

開催日：2022年8月20日（土）・21日（日）

会場：十文字学園女子大学

<所在地> 〒352-8510 埼玉県新座市菅沢 2-1-28

<URL> <https://www.jumonji-u.ac.jp/>

事務局：日本教育情報学会 第38回年会実行委員会

<所在地> 〒352-8510 埼玉県新座市菅沢 2-1-28

十文字学園女子大学 教育人文学部 石川敬史研究室
048-477-0555(代表)

年会 Web ページ：<http://jsei-nenkai.jp/>

主催：日本教育情報学会

後援（予定）：埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、所沢市教育委員会、新座市教育委員会、志木市教育委員会、和光市教育委員会、朝霞市教育委員会

日程（予定）

<1日目> 8月20日（土）		<2日目> 8月21日（日）	
10:00～12:00	課題研究発表	9:30～12:00	課題研究発表 一般研究発表
12:00～13:00	昼食・休憩 理事会・評議員会	12:00～13:00	昼食・休憩
13:15～13:45	総会・学会賞表彰式	13:00～14:00	特別セミナー
14:00～15:00	基調講演	14:15～17:15	一般研究発表
15:15～17:15	シンポジウム		
17:30～	懇親会		

※変更が生じる場合がありますので、次号 NL 及び年会 HP にてご確認ください。

■開催方式について■

- ・「対面」での方式を検討しています。
- ・ただし、新型コロナウイルス感染症流行の影響により開催方式の変更の可能性もあります（「オンライン」等の開催）。開催方式の詳細や懇親会開催の有無につきましては、次号（2022年6月頃）のニューズレター刊行までに決定いたします。

【1】 基調講演（8月20日(土) 14:00～15:00）

日本教育情報学会の地平

- ・ 講演：安達一寿（十文字学園女子大学・次期会長）
- ・ 対談：安達一寿、林徳治（甲子園大学・会長）
（司会：石川敬史 十文字学園女子大学）

【趣旨】

「これからの社会や教育に対応し、何を（研究内容）どのように（研究方法）考え、どこまで追究すべきなのか？そして、未来の創造に寄与する情報や知見は何か？」このことを痛烈に考えさせられる変化が今起こっている。本学会のこれまでの流れを振り返りながら、会員の皆さんと共に、この課題に向かっの議論ができることを願っている。そのために、基調講演では、使命や展望に関する論点を提示したい。

【2】 シンポジウム（8月20日(土) 15:15～17:15）

教育情報学の地平を拓く ―教育DXの推進に向けて―

- ・ パネリスト（五十音順）
荒木貴之（ドルトン東京学園）
新しいスタイルの学びをマネジメントする視点・立場から
伊藤博康（株式会社内田洋行 教育総合研究所）
教育DXに関連する技術を推進する視点・立場から
登本洋子（東京学芸大学）
新しい教授・学習法の実践・研究を推進する視点・立場から
元木章博（鶴見大学）
特別支援教育を中心とした個別最適な学びを推進する視点・立場から
森雅生（東京工業大学）
教育におけるデータ活用を推進する視点・立場から
- ・ コーディネータ：野末俊比古（青山学院大学）

【趣旨】

本シンポジウムでは、本大会の趣旨を踏まえ、コロナ禍において教育を取り巻く状況が大きく変わりつつあるなか、当面の課題をめぐる検討に留まらず、DXによって実現する「近未来の教育像」を見据えて、今ここから何をどう進めていけばよいか、教育情報学として道筋を提示することをめざす。

【3】 課題研究

■教育資料研究会

テーマ：新たな価値を見いだす個別最適化された学びと教育資料のあり方

【コーディネータ】成瀬喜則（富山大学）

又吉斎（沖縄女子短期大学）

【趣旨】

「個別最適化な学び」と「協働的な学び」をどのように実現するかは重要な課題である。そのためには、「学び」をどのように考えていくか、また、学習者が「学び」に対して価値を見いだすためには教育活動はどうあるべきか、ということについて研究を進めることが必要となっている。特に、新しい教育技術の出現によって教育資料の果たす役割も変化しつつあるため、これらの課題をさまざまな角度から議論する必要がある。

そこで、これまでの教育資料研究会で蓄積してきた「学び」の在り方とこれからの教育技術や情報技術を活用した「学び」を融合させ、新たな「学び」を創造することができる教育手法や教育情報に関して研究発表を通して討議したい。

特に、教育資料あるいは教育情報（学習情報・課題・評価等）を再検証して「新たな学び」の在り方を追究する。なお、学びの対象は幼児から大人まで幅広くとらえ、多くの方が参加できる場としたい。

■国際交流研究会

テーマ：ニューノーマル時代における教育・研究のグローバル化の在り方を考える

【コーディネータ】陳那森（関西国際大学）

清水義彦（富山県立大学）

【趣旨】

国際交流研究会では、日本教育情報学会における海外との学術交流やグローバル人材育成の在り方等に関する研究活動を推進している。グローバル化は、コロナで衰退はしないが、国際社会はこれまでにないさまざまな変革を余儀なくされている。

そこで、今回の課題研究では、昨年の内容も引き続き取り上げつつ、その後の各国における教育のデジタル化と変革がさらに加速した状況も視野に入れながら、それぞれの立場から話題提供をして議論を深めると共に、ニューノーマル時代における教育と研究のグローバル化が抱える課題と解決策を模索する。また、今回の課題研究でも海外の研究者に自らの研究成果を発表する機会を提供すると共に、日本の研究者にも国際研究交流の立場で幅広い分野からの研究成果を発表する機会を設け、時空間を超えた国際研究交流も活発化していきたい。

■デジタルアーカイブ研究会

テーマ：DX 社会における教育へのデジタルアーカイブ活用

【コーディネータ】皆川雅章（札幌学院大学）

井上透（岐阜女子大学）

【趣旨】

COVID-19 蔓延により、社会の DX 化が進展しデジタルアーカイブの活用が注目されている。学校教育や社会教育の現場では実体験や実物へのアクセスが制限されたが、感染対策の一環として非接触型のオンライン教育が幅広い分野において実施されるなど DX 化が進んだ。予測されなかった事態への対応としての急速な DX 化に伴う問題点も種々存在するが、この状況を受身的に捉えるのではなく、DX 化により ICT 利活用インフラの整備が進みつつある中、利用されるコンテンツつまり知識循環型社会の基盤としてのデジタルアーカイブの開発と活用の促進によってオンライン教育の特長を生かした教育方法、教育効果の改善が期待される。

今回の研究会を、DX 社会における教育機関、自治体、企業、地域などさまざまな分野におけるデジタルアーカイブ開発と活用の実践的、理論的な取り組みへの報告と議論の場としたい。

■著作権等研究会

テーマ：教育 DX における著作権

【コーディネータ】塩雅之（常磐大学）

坂井知志（日本デジタル・アーキビスト資格認定機構）

【趣旨】

著作権等研究会では、教育・研究などにおける著作権等に関する研究活動を行っている。昨今では、GIGA スクール構想やコロナ対策を背景として一気に遠隔授業が広まり、学会活動も Web 会議システムを利用したオンラインで行われることが多くなっている。

こうした教育・研究の DX を推進するためには、著作権等の正しい理解とあるべき制度の検討が必要となる。LMS や Web 会議システム等の各種システムを検証し、制度・技術の問題を整理する。また、著作権や授業目的公衆送信保証金制度について検証し、留意点および今後の制度改革の必要性について研究を深める。

■ICT 活用研究会

テーマ：ICT 活用による教育 DX の推進

【コーディネータ】河野敏行（岡山理科大学）

坂井岳志（世田谷区八幡小学校支援コーディネーター）

【趣旨】

「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」を目指す中、新型コロナの影響もあり、学びの環境が教室だけではなく、どこからでも、また誰とでもコミュニケーションを取りながら学べる環境が実践されてきている。このような整備されつつある環境を活かし、多様な子供たちに対応し、自分らしく学べる社会を築き、公正に個別最適化された学びや創造性を育む教育を ICT のより効

果的な活用により、如何に教育に活かされるのかについて議論する。

そのために、以下のテーマを中心の議論・開発を行い、教育者の意識と技術を高めていくことをテーマとする。

1. 全ての学習者に向けた教育サポートシステムおよび教材の開発
2. 1人1台時代の学習を支える学校や授業の在り方についての研究
3. ICTの活用促進のための具体的な学習環境や教材の開発
4. プログラミング思考力、創造的能力、AIリテラシーを養う教育や授業の開発
5. ライフスキル（非認知能力）を育てるPBLやSTEAM教育を活かしたカリキュラムの開発
6. 時間と空間を超えた遠隔講義システムを利用した教育の開発および活用

■特別支援教育 AT 研究会

テーマ：合理的配慮とアシスティブ・テクノロジー

【コーディネータ】新谷洋介（金沢星稜大学）

小川修史（兵庫教育大学）

【趣旨】

2021年に文部科学省より「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告」が出された。これには「ICT利活用等による特別支援教育の質の向上」として特別支援教育におけるICT利活用の意義と基本的な考え方、今後の方向性が示されている。しかし、それらの情報機器を障害のある児童生徒が学習に使いこなすためには、十分な配慮と環境の整備、教員の専門性の担保が求められる。

同年には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」が見直された。同法律では公的機関のみならず民間団体でも「基礎的環境整備と個別の合理的配慮」が求められることとなっている。

この「基礎的環境整備と個別の合理的配慮」には障害に応じたICT機器等の活用（アシスティブ・テクノロジー）が重要で、その活用のさらなる発展・普及が期待される。また、障害のある児童生徒の学びを広げるためにはSDGsの実現やプログラミング学習における活用なども検討課題となる。

■IR 研究会

テーマ：教育DXの推進におけるIR研究・業務との連携の可能性

【コーディネータ】森雅生（東京工業大学）

石井雅章（神田外語大学）

【趣旨】

教育DX（デジタル・トランスフォーメーション）の推進にあたって、教育データの効果的な活用への関心が高まっている。教育に関するデータは多面的であり、それらを有効に活用することにより教育の質を向上させることは非常に重要である一方で、学校における各種データは担当部署にサイロ化されて収集・保存される傾向があり、学校全体として統合的かつ計画的に活用する体制が整備されてきたとは必ずしも言えないのが現状である。

一方、高等教育機関を中心に発展・浸透しつつあるインスティテューショナル・リサーチ（IR）においては、組織としての意思決定に不可欠なデータを収集・分析

し、活動に反映させるために知見が蓄積され始めている。

本課題研究では、特に教育データの範囲、品質、組み合わせという観点から教育の質を向上させるための実践的な知見に関する研究を中心に、教育 DX の推進に寄与しうる IR 研究・実践について幅広く募集をする。

■プログラミング教育研究会

テーマ： GIGA スクール環境下におけるプログラミング教育の在り方と展望

【コーディネータ】山本利一（埼玉大学）

小熊良一（群馬大学）

【趣旨】

プログラミング教育研究会では、各種発達段階におけるプログラミング教育の実践事例を収集すると共に、その効果を幅広く発信したいと考えている。令和 3 年度は、GIGA スクール構想により ICT 環境が整いつつある教室で、「どのような教育実践が可能か」、「どの様に学習効果を上げるか」など、多くの先生方にご提案いただきたい。

教育のグローバル化や、扱う情報が飛躍的に増加している予測困難な時代を児童・生徒が生き抜くためのプログラミング教育について、協議を深めていくことができればと考えている。

■教職開発研究会

テーマ：教育 DX 推進のための授業技術・教材開発

【コーディネータ】佐藤典子（甲子園大学）

治京玉記（大阪夕陽丘学園短期大学）

【趣旨】

近年様々な分野でデジタル化が推進され、学校においても、デジタル技術を活用する事が求められている。学校においては、すべての子供たちの可能性を引き出すためには、デジタル・トランスフォーメーションを通して「個別最適化の学び」と「協同的な学び」が実現すると考えられている。コロナウイルス感染拡大によって学校においてもデジタル化が促進されたが、コロナ収束後にどのような姿が理想的なのか考える時期となっている。フィジカル空間とサイバー空間がいかにして融合していくのか、考える必要がある。

「誰もが、いつでもどこからでも、誰とでも、自分らしく学べる社会」を実現するためには、学校における授業技術・教材開発の工夫も必要である。授業技術・教材開発の工夫によって「豊かな教育情報」がもたらされると考えられる。教職開発研究会では、授業技術・教材開発においてどのようなデジタル・トランスフォーメーションが可能であるか検討し、議論を深めたい。

【4】 特別セミナー（8月21日(日) 13:00～14:00）

ミュージアムを活用した新しい教育

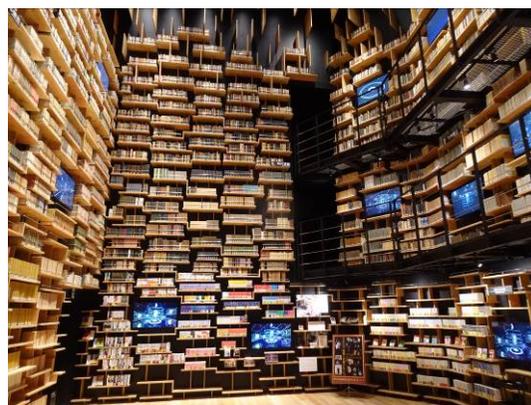
藤原みなみ（角川武蔵野ミュージアム 学芸員）

【趣旨】

2020年に開館した角川武蔵野ミュージアムでは、図書・美術・博物の3館融合を目指している。年会開催校である十文字学園女子大学とは、図書のエリアを使った「本棚ワークショップ」を共同で開発した。この取り組みをはじめとして、開館から行ってきた地域の学校との連携事業を紹介したい。また当館で展示している、プロジェクトマッピングなどの映像を使ったデジタル作品を利用し、インタラクティブな学習を検討する機会としたい。



角川武蔵野ミュージアム



本棚劇場

角川武蔵野ミュージアム

所在地：〒359-0023 埼玉県所沢市東所沢和田 3-31-3

運営：公益財団法人角川文化振興財団

概要：図書館・美術館・博物館が融合した文化複合施設。編集工学者・松岡正剛、博物学者・荒俣宏、建築家・隈研吾、芸術学・美術教育の神野真吾による監修のもと、メインカルチャーからポップカルチャーまで多角的に文化を発信する。

開館時間・利用料金：Web ページを参照 <https://kadcul.com/>

アクセス：JR 武蔵野線「東所沢」駅から徒歩約10分

（開催校の十文字学園女子大学・最寄り駅「新座」駅の隣です。）

【5】 研究発表申込募集

① 研究発表申込資格

- ・第1発表者（当日発表を行う方）は、会員資格（正会員・学生会員）であることが必要となります。非会員の方は、発表申込までに学会運営本部事務局（jsei@ml1.osaka-kyoiku.ac.jp）に申込み、入会登録手続きを行ってください。
- ・会員番号をお忘れの方は、郵送物の宛名ラベルに印字してある4ケタの数字が会員番号ですので、ご参照ください。
※研究発表の申込みや発表原稿の提出時にも、会員番号が必要となります。

② 発表内容について

- ・「教育情報に関する研究」であれば特に内容は問いません。「教育情報」とは、「教育に関する情報」と「情報に関する教育」の内容となります。
- ・ただし、発表申込状況によっては、希望に添えない場合がございます。あらかじめご了承ください。
- ・キーワードは下記より2～3語を選択してください。キーワードは5語以内とし、下記表より2～3語選択、それ以外は自由に設定してください。

IR、アクティブ・ラーニング、ESD、eラーニング、インターネット、遠隔学習、学習管理、学習コンテンツ、学習支援、学習メディア、可視化、学校経営、カリキュラム開発、企業内教育、教育サービス、教育施策、教育情報システム、教育評価、教育方法、教科教育、教師教育、高等教育、国際開発、社会教育、生涯学習、情報教育、情報検索、情報サービス、情報資源、情報処理教育、情報デザイン、情報文化、情報リテラシー、情報倫理、職能開発、初等教育、専門教育、地域連携、知的財産、中等教育、データサイエンス、データベース、デジタルアーカイブ、デジタルコンテンツ、特別支援教育、図書館情報学、ネットワーク、ビッグデータ、ヒューマンインターフェース、プライバシー保護、プログラミング、メタデータ、メディア活用、メディアリテラシー、幼児教育（五十音順）

③ 発表申込方法に関するお願い

＜1＞ 発表申込方法

- ・第38回年会ホームページ（<http://jsei-nenkai.jp/>）の各種申込の[発表申込みフォーム]から、必要事項を入力していただき、お申込みください。
- ・年会ホームページ以外での受け付けおよび申込期限後のお申込みは受け付けることができませんのでご注意ください。
- ・申込後の申込内容変更については、年会ホームページのお問い合わせからご連絡をお願いします。

＜2＞ 発表申込期間

2022年3月1日（火）～4月28日（木）

＜3＞ 申込完了メール

- ・Web上の[発表申込みフォーム]からのお申込みが完了すると、お申込み時のEメールアドレスへ『発表申込み完了メール』が送信されます。

※申込完了後は『発表申込み完了メール』が届いていることをご確認ください。

《4》 発表採否通知期間

- ・5月10日（火）頃（発表のお申込みが完了した方には、発表の採否をメールで連絡します。）

《5》 原稿作成

- ・発表採択の方には、原稿の執筆要項（word形式ファイル）をお送りします。
- ・論文の原稿枚数は、課題研究は **4枚**、一般研究は **2枚**とします。

《6》 原稿提出期間

- ・2022年6月1日（水）～7月4日（月）

《7》 課題研究に関する注意事項

- ・課題研究は各研究会のテーマに沿って研究発表題目をつけてください。
- ・課題研究発表は年会実行委員会で調整し、テーマごとに担当コーディネータが検討し、審査します。その結果、発表「否」となる場合もあることをあらかじめご了承ください。
- ・課題研究として発表できない場合でも、課題研究分を一般研究発表として発表していただくことがあります。
- ・第1発表者として課題研究発表は、1人につき1件のみとします。ただし、年会実行委員会から特に依頼された課題研究発表についてはこの限りではありません。

《8》 一般研究に関する注意事項

- ・第1発表者としての一般研究発表は、1人につき1件のみとします。
- ・発表等の時間は、発表10分、質疑4分、交代1分です。
- ・一般発表は会員の方のみ発表可能です。

《9》 発表申込フォームの書き方

- ・共同研究者は何人でもかまいません。
- ・概要はなるべく具体的に書いてください。
- ・キーワードは5語以内とします。このうち上記表のキーワードの中から2～3語を選択し、それ以外のキーワードは自由に設定してください。
- ・発表者の方へは、発表申込登録内容に関して問い合わせる場合がありますので、連絡先の変更が生じた際は、年会事務局までご連絡をお願いいたします。

《10》 原稿提出フォームの書き方

- ・原稿は、執筆要綱に従い作成していただき、PDF形式に変換後、原稿提出フォームからご提出ください。

《11》 参加フォーム

- ・参加申込みの際には、参加費などの振込完了後、参加申込フォームより参加手続きを行ってください。

《12》 発表会場

- ・会場で使用できる機器は、プロジェクタです。パソコンは各自で持参してください。
- ・発表の会場については、今後の新型コロナウイルスの感染拡大の状況を踏まえて、後日連絡させていただきます。

- ・オンライン開催の場合は、Zoomでの発表を予定しています。

【6】 年会の参加方法

① 参加申込

次号ニューズレターで、申込方法や開催方法等の詳細についてご案内いたします。

② 参加費用

- ・参加費、年会論文集代は下記のとおりです。
- ・なお、支払方法につきましては、次号のニューズレターでご案内いたします。

○参加費

- ・会員事前申込締切日まで
参加費 3,000 円 資料代 3,500 円 懇親会費 5,000 円
- ・会員（当日）、非会員
参加費 4,000 円 資料代 3,500 円 懇親会費 5,000 円
- ・後援関係の教職員、学生（会員）
参加費 無料 資料代 3,500 円 懇親会費 5,000 円

※課題研究と一般研究の両方にお申込みの方も参加費は3,000円です。

※後援教職員・学生（会員）の参加費は無料です。ただし、後援教職員・学生（会員）であっても発表者は参加費が必要です。

③ 論文集の郵送申込について（年会に参加されない方）

- ・年会に参加されない方で、論文集を購入希望の場合は、上記振込先へ論文集代をお振り込みのうえ、年会HP内の「参加申込」にあります「論文集郵送申込フォーム」よりお申込みください。
- ・年会終了後に論文集を送付します。
- ・論文集：4,000 円（本体、郵送費等を含む）

④ 後援関係の皆様

- ・新規の方の参加を歓迎します。後援・協賛いただいた教育委員会所属の教職員の参加費は無料とします（資料代の代金は必要です）。

【7】 年会開催までのスケジュール

- | | |
|-----------|-----------------------|
| ○発表申込期間 | 2022年3月1日（火）～4月28日（木） |
| ○発表決定通知 | 2022年5月10日（火）頃 |
| ○原稿提出期間 | 2022年6月1日（水）～7月4日（月） |
| ○参加申込期間 | 2022年6月1日（水）～8月5日（金） |
| ○論文郵送申込期間 | 2022年6月1日（水）～8月5日（金） |

【8】 広告掲載募集

年会論文集用の広告を募集いたします。広告を掲載頂いた企業の方には、当日会場内ブースにて、無料で製品紹介及び展示等をしていただくことが可能です。企業のPRや情報交換の場として大いにご活用いただければ幸いです。

詳細は以下の通りとなっております。会員の皆さまにおかれましてはお知り合いの関連企業にお声掛け頂き、多くの企業の方にご参加いただけるよう、ご紹介のほどよろしく願いいたします。

広告掲載申込方法などは年会HPにて告知します。その他に、ご質問がありましたら、年会HPのお問い合わせからお願いします。

協賛（料金：¥40,000）		
① 展示（1ブース） ② 広告1（論文集掲載） ③ 広告2（フライヤー配布）	論文集掲載広告	
	色	1色（モノクロ）
	頁（寸法）	1/1 頁（天地 240mm×左右 160mm）
	形式	Word, JPEG

日本教育情報学会 運営本部事務局

〒582-8582 大阪府柏原市旭ヶ丘4丁目698-1

大阪教育大学 理数情報教育系 理数情報部門 若杉研究室

TEL: 090-1026-1413

FAX: 050-3488-5061

E-mail: jsei@m11.osaka-kyoiku.ac.jp

HP: <http://jsei.jp/home/>